

# コイノニア



12月になると、どこもかしこもクリスマス一色になります。気温はどんどん下がり、吐く息も真っ白になりますが、心の中では少しだけ、クリスマスへの期待であったかくなります。そんな12月の聖句は、ルカによる福音書2章14節です。

「いと高きところには栄光、神にあれ、  
地には平和、御心にみこころにかた適う人にあれ。」

この聖句は、クリスマス物語の中でも非常に有名な一節です。羊飼いたちの前に、天使たちが現れ、神さまを賛美している…真っ暗な辺りが、一瞬のうちに輝きに満ち、羊飼いたちがイエス・キリストの生まれたベツレヘムへ出発していく場面です。

ルカによる福音書では、イエスの誕生、すなわちクリスマスが一番待ち望み、喜んだ人々として、羊飼いを登場させています。ところが羊飼いは当時の社会の中では、信用されず、人々から仲間はずれにされ、差別されていた人々でした。そんな羊飼いのところに天使がやってきて、イエスの誕生を伝えたのです。

「救い主(=イエス・キリスト)は、飼い葉桶の中に眠っている。」

それがイエスを見つけるための“しるし”でした。もしもイエスが、明るくて、立派で、きらびやかな宮殿やお城の中で生まれていたとしたら、羊飼いたちはイエスを見つけるところか、宮殿やお城に入る前に、見張りの兵隊に捕まえられてしまったでしょう。

でも、イエスが誕生した場所は、貧しくて、暗くて、静かで、誰にも見つからないような家畜の小屋だったのです。だからこそ、羊飼いたちは、わざわざ着飾る必要もなく、いつも通りの“ありのままの姿”でイエスの誕生をお祝いすることができたのです。羊飼いたちは初めて

「ありのままの姿で受け入れられる」といううれしさ、喜びにあふれた生き方を、イエスと出会うことで与えられたのです。そんな喜びの訪れであるクリスマスを、1日1日楽しみに待ちましよう。みなさんにもステキなクリスマスがやってきますように…。

## 聖書・キリスト教の“はじめの一步” #09 「アドヴェント(Advent)」

「アドヴェント」とは、クリスマスまでの4週間を指す言葉です。日本語では「待降節」と言い、イエスの誕生を待ち望む期間です。この間、教会では毎週1本ずつろうそくを灯して礼拝を守ります。アドヴェント第1主日には1本のろうそくに、第2主日には2本のろうそくに、そして4本のろうそく全てに火が灯ればクリスマスというわけです。

またAdventと同じ語源をもつadventure(アドベンチャー)という単語は「冒険」という意味ですが、クリスマスとは神さまがイエスという人のかたちとなって、この世界に平和をもたらすためにやってきたと言えます。まさに、争いや問題の多い私たち人間を救う「冒険」に…。

## 12月の予定

月間聖句 「いと高きところには栄光、神にあれ、  
地には平和、御心に適う人にあれ。」(ルカ2:14)

月間テーマ 「イエスの誕生を喜ぶ」

15日(火) クリスマス礼拝

イエス・キリストの誕生をみんなでお祝いする礼拝です。本校の礼拝堂と体育館をZoomでつないで全校で一緒に礼拝します。

## JONAN's History #09 クリスマスを祝う姿



この写真は、1968年のクリスマス祝会の様子です。ろうそくの灯りの中で、聖書のクリスマス物語(イエスの誕生の物語)を読み、クリスマスの賛美歌を歌い、祈りをささげたのでしょう。

暗闇の世界に光としてやってきたイエス・キリストとの出会いを厳かに体験する、キリスト教主義学校らしいクリスマスの様子です。

←写真は『松山城南高等学校創立120周年記念誌

120年の軌跡～120年の愛・希望 未来へ～』より

## ☆今月の「喜ぶ人と共に」大賞☆

大学受験を控えた生徒たちのために、卒業生の先輩がアドバイスに来てくれました！  
現役の大学生である先輩に、直接お話を聞くことができ少し安心できました！！

**先輩、どうもありがとう！！大学受験、がんばります！！**

